

平成29年7月3日(月)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ



昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



自立する準備～親離れと子離れ

校長 上田 祥市

雨の日と晴れの日が繰り返し、少しずつ夏に近づいています。梅雨明けの待ち遠しい季節となりました。

さて、6月には本校の目指す「自立と共生」を体験しながら学ぶ二つの大きな行事がありました。それは、6年生の日光移動教室と5年生のハヶ岳移動教室です。子供たちは、親から離れ、友達とともに過ごす2泊3日で、自立する心や互いの違いを認め合い、協力する喜びを体感します。

野生動物の中には、生まれてすぐに親と離れ離れになり、自分自身の力で生きていくしかない動物もいます。しかし、人間は保護者(親)が愛情を注いで子育てし、自立させるまでに時間があります。その期間に、保護者が子供との関係をどう築き、親離れ・子離れをし、子供の将来とどう向き合っていくのかを考えることが、自立するためには大切なことだと考えます。

子供たちは、ある日突然自立することはありません。小さな頃から少しずつ自分でできることを増やしながら自立へと向かいます。高学年から中学生にかけては反抗期が訪れますが、それも子供にとっては自立しようとする現れと考えるといいようです。つまり、大切なことは周りの大人がどう自立を意識して、行動するかということです。適切なかかわりができなければ、自立を遅らせ、誰かに依存しなければ生きていけないようになってしまいます。

高学年の宿泊体験では、部屋で寝る準備やお風呂の入り方、荷物の片づけや翌日の準備、体調管理まで自分でやらなければいけません。

中には、食事やお風呂のマナーができていなかったり、自分で荷物の準備ができなかったりする子もいます。自分で荷物を準備せずに親にやってもらったために、自分でどこに何があるかがわからない場合もあります。わからないから焦って失敗をしたり、時間がかかって集合時刻に間に合わなくなったりすることもあります。本校の移動教室では、子供たちが困っていても、先生たちはすぐに助けることはしません。できるだけ自分でできるように見守ります。もちろん、約束が守れないときは厳しい指導をします。そのとき、子供たちは自分の行動を振り返り、自分の甘さを知り、次へと生かそうと努力するようになります。一度身をもって失敗した経験は、次回失敗を防いだり、失敗したりしたときに大きく役立ちます。これは、失敗しないと得られない経験です。ですから、1日目は失敗がなくても、2日目3日目と自分でやるべきことがきちんとできるようになるのです。

大人が、失敗させないように手を出し過ぎて、子供たちの学びながら成長するチャンスを奪ってはいけません。子供への愛情は溢れるほど注いでほしいと思いますが、その一方で、自立の芽を摘むことは気を付けなければいけません。



6年生と5年生の移動教室は、どちらも3日間見事な快晴に恵まれ、自然の中でたっぷりエネルギーをもらい、友達の良さと自分の良さを感じ、どの子も大きく成長した素晴らしい体験となりました。